

全国の自治体における流域活性化に関する研究 (第31回全国川サミット in 守山・琵琶湖)

Study of Watershed Revitalization in Local Governments Nationwide
(31th National River Summit in Lake Biwa, Moriyama)

水循環・まちづくり・防災グループ 次 長 風間 聡
審 議 役 土屋 信行
水循環・まちづくり・防災グループ グループ長 清水 晃
水循環・まちづくり・防災グループ 研 究 員 北澤 史

1. はじめに

全国川サミットは川の環境、流域の生活や歴史への理解を深めその普及啓発を目的に、平成4年度から開催されてきた。平成29年度から当研究所が常設事務局（主催自治体との共同事務局）となり、サミットで共有されてきた情報のアーカイブを主な役割として活動している。令和5年度は、滋賀県守山市の琵琶湖を舞台に「第31回全国川サミット in 守山・琵琶湖」として開催されており、内容について報告する。



写真－1 守山市内からの琵琶湖

環境新時代に向け人々が力を合わせていくことを目的に、“川と人と未来をつなぐ”サミットとして令和5年10月20日から22日にかけて開催した。

サミットには、全国から13市区町村の首長等が参加するとともに、国土交通省や滋賀県等からの来賓や多くの市民の参加をいただいた。

1日目は、連絡協議会の中で、近畿地方整備局から「流域治水の取り組み」、「小さな自然再生とグリーンインフラについて」、環境省から「あしもとからのネイ



写真－2 川サミット連絡協議会出席者

2. 第31回全国川サミット in 守山・琵琶湖

琵琶湖は400万年の歴史がある古代湖のため、多くの固有種等の生物が生息している。守山市に面する赤野井湾は、かつて“魚島”と呼ばれるなど豊かな湾であったが、流域からの汚濁負荷の増加により水質汚濁が問題となった。このような中、地元の漁協や環境保護団体、自治会や市民一人一人が国、県、市と連携した保全活動を行ってきた結果、豊かな自然環境の再生や生物多様性の保全が進み、淡水真珠の復活や琵琶湖固有種のホンモロコの産卵が見られるようになってきた。

今回の川サミットは、赤野井湾をモデルに琵琶湖の再生や未来の川づくりの在り方について理解を深め、

「チャーポジティブ」についての基調講演をいただいた後、“首長サミット”にて、各地域の河川の川と人とのつながりについての紹介や意見交換を行った。参加者からは、「地域には川と人の生活との密接な関係や歴史があり、川が地域の文化を育てている。その川と文化を守るとともに、上手に活用し、市民の憩いとにぎわいの場としながら川と地域の魅力を活かしたまちづくりを進めていく」などの意見があった。

2日目は、琵琶湖での各種保全活動等を行ってきた団体や琵琶湖や河川への関心のある多くの市民も参加し、「第31回全国川サミット in 守山・琵琶湖」(シンポジウム)を開催した。「瀬田川洗堰と琵琶湖の環境」、「赤野井湾再生プロジェクトの取り組み」についての



写真-3 会長（守山市長）の挨拶

事例報告や、地元小学生による「赤野井湾の魅力発見 in 琵琶湖」と題した、琵琶湖の現状や自分たちの環境保全活動などの内容についての発表があった。小学生



写真-4 地元小学生による発表

たちは、ステージを所狭しと動きながら生き生きと自分たちの体験を発表し、将来の赤野井湾や琵琶湖の環境保全活動を担っていく、まさに“川と人と未来をつなぐ”ことが期待された。さらにパネルディスカッションでは「未来の川づくり、人と川をつなぐ」をテーマに赤野井湾に携わる6人の登壇者により、琵琶湖をはじめとする未来の川づくりやそれぞれが描く“良い川”などの意見交換を行った。



写真-5 パネルディスカッションの様子

シンポジウムの最後に、会長より共同宣言を発表した。



写真-6 共同宣言の発表

今回のサミットでは、3日目のプログラムとして、滋賀県流域治水の推進に関する条例に基づく県民相互連携の取り組みである「淡海の川づくりフォーラム」を実施した。このフォーラムは、「川や琵琶湖、水辺と共生する暮らし」「川や琵琶湖、水辺と私たちのいい関係」を築いていくための参考となる“きらり”と光る活動を公開討論によって探し、いちばん輝く活動をみんなで表彰するものである。今回は県内外の小学生から地域に根差し長年活動されているグループまで16団体、約150人が参加し、それぞれのいい川づくりの取り組みの発表や意見交換が行われ、交流を深めることができた。



写真-7 「淡海の川づくりフォーラム」の様子

3. おわりに

今回の全国川サミットでは、琵琶湖の赤野井湾の保全活動等を話題の中心にしつつ、全国からの参加者との意見交換により、川がもたらす恵みや人々との関わりを活かしながら、川と共存するまちづくりを進めることの理解を深めることができた。

次回開催地である北海道旭川市での川サミットについても、全国の河川の水辺での活動を行う自治体や市民の参加による情報交換や交流を期待する。